思わず走りたくなる仕掛け

成蹊高等学校 田辺勇希

◆仕掛けの目的 運動に対して無関心な人を仕掛けを用いて 思わず走りたくさせて、運動不足を解消

◆調査実施日

1回目 2022/1/10 14:10~14:40 @井の頭公園入口の坂

2回目 2022/1/18 11:45~12:45 @井の頭公園ランニング

コースの坂

3回目 2022/1/21 11:30~11:35 @井の頭公園ランニング

コースの坂

(警備員から注意を受けて中止)

実験 1

結果



		素通り	見た人	歩いた人	走った人
大人 男性	Ė	24	4	1	0
大人 女性	Ė	0	2	1	0
子供男性		29	3	0	0
子供女性		0	1	1	0

上り坂の右端に歩幅に合わせて、**黄色いガムテープを まっすぐに貼った**。

つい走ってしまうように歩幅の間隔を少しずつ広げて 最終的に約20mの仕掛けを作った。

実験 2&3



結果

	素通り	見た人	歩いた人	走った人			
大人 男性	12	9	4	0			
大人 女性	5	10	3	0			
子供 男性	0	0	0	0			
子供 女性	0	1	0	0			

2回目は、場所を変更し、運動習慣のある関心層を ターゲットに実験した。**ガムテープを矢印に変えて進行 方向**をわかりやすくしたほか、**スタートラインを作って** そこに、ガムテープで**(STEP) と貼った。**

3回目は、2回目と同じ内容のものを**ランニングコースの 左側に設置**した。

考察

子供の方が視点が低く、子供の脳の発達の過程にある好奇心によって、仕掛けに気付きやすく反応しやすいと感じた。

運動不足が進む中高年期の人には、地面・路面の仕掛けの有効性が低いと思う。更に視覚的インパクトの強いデザインにするか、単に好奇心に呼び掛けるだけでなく、その仕掛け通りに動くことで、健康促進以外に大きなメリットが生まれる空間設計が必要と感じた。